

目 次

はしがき v

第 I 部 生成文法編

第 1 章	日英語に見る主語の意味役割と統語構造長谷川信子	2
第 2 章	生成文法と認知言語学との対話は可能か？ —長谷川論文へのコメント—西村義樹・長谷川明香	27
第 3 章	統語論の自律性仮説について田窪 行則	34
第 4 章	「シンタクスの自律性」と「文法性」 —田窪論文への脚注として—西村義樹・藤田耕司	48
第 5 章	日本語モーダル述語構文の統語構造と時制辞の統語的役割竹沢 幸一	55

第6章	統語構造の異なりと意味 —竹沢論文の類例の検証—	天野みどり	77
第7章	自然言語と数詞のシンタクス	平岩 健	88
第8章	数詞のシンタクス —平岩論文へのコメント：日本語史研究の立場から—	小柳 智一	110
第9章	受動動詞の日英比較 —生物言語学的アプローチの試み—	藤田 耕司	116
第10章	併合をめぐるあれやこれや —藤田論文へのコメント—	本多 啓	143

第 II 部 認知言語学編

第11章	英語の定冠詞句と日本語の裸名詞句の類似	坂原 茂	154
------	------------------------------	------	-----

第12章	知識ベースの構造について —坂原論文に対するコメント—	田窪 行則	180
第13章	事象統合からみた主要部内在型関係節構文 —「関連性条件」再考—	野村 益寛	186
第14章	関連性条件からみた主要部内在型関係節の諸問題 —野村論文の意義と再解釈—	平岩 健	212
第15章	自律移動表現の日英比較 —類型論的視点から—	古賀 裕章	219
第16章	「スロット」に基づく分析と日本語 —日本語研究の立場からみた古賀論文—	三宅 知宏	246
第17章	間主観性状態表現 —認知意味論からの考察—	本多 啓	254

第18章	非変化の「なる」の歴史 —本多論文への日本語史的アプローチ—青木 博史 274
第19章	語彙，文法，好まれる言い回し —認知文法の視点—西村義樹・長谷川明香 282
第20章	生成文法と認知文法のインターフェイス —西村・長谷川論文が示唆するもの—藤田 耕司 308

第 III 部 日本語学編

第21章	逸脱的「それが」文の意味解釈天野みどり 320
第22章	接続詞的「それが」の意味解釈は「それ+が」から導出可能ではないのか？ —天野の「連鎖文類型」アプローチに対する批判的検討—竹沢 幸一 343
第23章	日本語の疑似条件文をめぐって三宅 知宏 352

第24章	「疑似条件文」の統語構造 —三宅論文の「係り結び」の一般化の統語的考察—	長谷川信子	372
第25章	語彙-文法変化 —内容語生産と機能語生産—	小柳 智一	380
第26章	語彙化・文法化・語形成 —小柳論文の「内容語生産と機能語生産の見取図」をめぐって—	野村 益寛	401
第27章	語から句への拡張と収縮	青木 博史	408
第28章	句の包摂現象と文法化 —青木論文が文法化に示唆するもの—	古賀 裕章	423
第29章	助動詞選択とは何か —日本語学史の視点から—	齊木美知世・鷺尾龍一	431

第 30 章 助動詞選択と動詞統語論

— 齊木・鷺尾論文が提起する理論的問題の検討 —

..... 藤田 耕司 459

索 引 467

執筆者紹介 471